

書牘卷之二（十四）

家屋敷^賣壳渡^証文

覺^覺

一、金何百円^圓也

「別紙沽券之屋敷並建屋幾坪、造作

疊^疊・建具等一式、土蔵何ヶ所附^賣壳渡^價本価、」

右は拙^者者所持之屋敷、此度

地券書替、建家・土蔵とも

貴殿へ^賣壳渡候二付、書面之

金受取候所実正也、右家屋

敷二付、万^萬一如何様之故障

出来候共、証^証人引受聊

御煩勞相懸申間敷候、後日

の為証^証書差入候也、

明治何年何月何日

賣^賣壳渡人 何某

証^証人 何某

何某殿

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。